

# オオコオイムシ

*Diplonychus major*

コオイムシ科



オオコオイムシ（左が成虫、右が幼虫）

## 名前の由来

背に卵を背負うことから、子を背負う虫という意味。別種のコオイムシより大きいためオオと付く。

漢字名：太子負虫

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原樹林)  
鳥類  
ワシタカ

## 特定種

北海道レッドデータ：希少種

## 形態的特徴

成虫の特徴：体長23～26mm。体は黄褐色で平たく、輪郭は円形で、頭部は山のような形で短く、前方に突き出ている。

類似種と見分け方：コオイムシ。

コオイムシの体長は17mm～20mm。



卵を背負ったオオコオイムシのオス。オオコオイムシのメスはオスの背に卵を産みつける

## 生息環境・分布

植生豊かな池沼の水面近くに生息する。

州・北海道。北海道内では、普通に分布。

分布：国外分布は、朝鮮半島・中国北部。国内分布は、本

十勝地方では、普通に分布。

## 食性・他の生物との関わり

モノアラガイ・小魚・他の小昆虫など水中の小動物を捕食する。

## 繁殖生態・寿命

メスは5月から6月にかけてオスの背に産卵する。オスは卵が孵化する1ヶ月ほど、卵を空中に出して呼吸の手助け

をして守り育てる。

## 興味深い話

■捕食性の水生昆虫であるため生態系の上位にランクされる。

オオコオイムシは少なくとも50回交尾をしていると言える。動物界で最も多く交尾をするすごい虫である。

■一卵につき一度の交尾を行うため、約50個の卵を背負う

## 配慮事項

水質汚濁に影響を受ける。水中植物が繁茂した空間も必要で、水中小動物が多数生息した止水環境の維持が重要であ

る。エコトーンを維持するか、少なくとも緩傾斜の水際部が必要である。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
卵期・幼虫期					■								
成虫期	■						■						

## 参考文献

「日本産水生昆虫検索図説」川合禎次 東海大学出版会 1995

「川の生物図典」財団法人リバーフロント整備センター 1996

「日本動物大百科昆虫Ⅰ」日高敏隆 平凡社 1996